

外国人に対する態度と外国人イメージの測定

金 田 宗 久*

本研究は、外国人に対する態度および彼らに対するイメージについて検討することを目的とした。顕在的測定では、感情温度計を用いて外国人に対する好意度評定とSD法によるイメージ評定を実施した。潜在的測定ではFUMIEテストを実施した。その結果、外国人に対する好意度、SD法によるイメージ評定、FUMIEテストのIAS得点いずれにおいても外国人に対してポジティブな態度あるいはイメージを抱いていることが示された。しかしながら、潜在的指標であるFUMIEテストのIAS得点と顕在的指標であるイメージ評定あるいは好意度との相関はみられなかった。このことは外国人に対する態度における潜在的側面と顕在的側面を反映していると考えられる。

Keywords: attitudes towards foreigners, images of foreigners, FUMIE test, explicit/implicit measures

問 題

2012年に我が国を訪れた外国人の数（訪日外客数）は835万人に上る。国別にみると、韓国が最も多くおよそ200万人、次いで台湾、中国がそれぞれ約140万人であった。アジア以外からも、アメリカ71万人、オーストラリア20万人、イギリス17万人の人が日本国を訪れている（日本政府観光局JNTO, 2013a）。また、年別の推移をみると2002年に500万人、2004年に600万人、2006年に700万人に達し、年々増加する傾向がみられる（日本政府観光局JNTO, 2013b）。これとは別に、日本に永続的に居住する「永住者」の外国人登録者数（特別永住者を除く）は、2007年の43万人から年々増加しており、2013年には59万人を越えている。国籍（出身地）別にみると、中国が最も多く18万人、次いでブラジル12万人、フィリピン10万人、韓国・朝鮮6万人、ペルー3万人となっている（法務省入国管理局, 2012）。来日の目的はさまざまであるが、近年の外国人入国者の数は増加傾向にあり、それに伴い、我々の日常生活の中で外国人を目にする、あるいはコミュニケーションを図らなければならない状況に遭遇する可能性が高くなっていると考えられる。そして、国際化社会のなかで我々が日本国を訪れる外国人をどのようにとらえているかを把握することが、重要

な課題の一つであると考えられる。

外国人イメージ 渋谷・テー・李・上瀬・萩原・小城（2011）は、アメリカ人、中国人、韓国人、アフリカ人、日本人に対するイメージについて20項目の形容詞（e.g., 礼儀正しい, 自己主張が強い）からあてはまるものを複数回答形式によって選択することを調査対象者に求めた。その結果、アメリカ人に対しては「陽気」、「遊び好き」、「個人主義」、中国人に対しては「愛国心が強い」、「自己中心的」、「自己主張が強い」、「気性が激しい」、「感情的」、韓国人に対しては「愛国心が強い」、「気性が激しい」、「感情的」、アフリカ人に対しては、「リズム感がよい」、「陽気」というイメージが強い傾向にあった。また、アテネ・オリンピック大会における外国人イメージの変容について検討した村田（2007）は、外国人イメージを「好感度」と「知的能力」の2つの次元からとらえ、ブラジル人、アルゼンチン人、ロシア人、オーストラリア人を含む全15カ国の人に対するイメージを検討した。「好感度」については、「親しみやすい—親しみにくい」「冷たい—暖かい」「信用できない—信用できる」「好き—嫌い」の4項目、「知的能力」については、「頭が良い—頭が悪い」「有能でない—有能な」「知的な—知的でない」の3項目の両極形容詞対をそれぞれ得点化している。その結果、オリンピック前の時点において、アフリカ・

* 愛知学院大学心身科学部心理学科

(連絡先) 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12 E-mail: m-kaneda@dpc.agu.ac.jp

南米諸国（ブラジル・アルゼンチン・エチオピア・ケニア）の国民に対する好感度は高いが知的能力が低い、西欧諸国（アメリカ・イギリス・オランダ・オーストラリア）に対しては好感度も知的能力も高い、近隣の大国（ロシア・中国・韓国）に対しては知的能力が高く好感度が低いというイメージを抱いていたことを報告している。

しかしながら、渋谷ら（2011）や村田（2007）は、「外国人イメージ」を各国の国民に対するイメージとして扱っており、日本人が「外国人」というカテゴリーに対して抱いているイメージを反映しているとは言い難い。このため本研究では、各国の国民をターゲットとして扱わず、「外国人」を評定のターゲットとする。

顕在的測定／潜在的測定 あるターゲットに対するイメージや態度、信念について測定する際、大きく分けて2種類の測定法をあげることができる（Devine, 2001；藤井, 2011；Greenwald, McGhee, & Schwartz, 1998）。それは、顕在的測定法と潜在的測定法である。前者はSD法や評定尺度法などの自己報告法であり、意識的な側面をより反映していると考えられている。それゆえ社会的望ましきによる回答の歪曲という問題点が指摘されている。後者は主に反応時間を指標として扱うもので、より無意識的な側面を反映していると考えられている。潜在的測定法の一つに、Mori, Uchida, & Imada（2008）によって開発されたFUMIE（filtering unconscious matching implicit emotions）テストがある。例えば、Sakai & Koike（2011）は、日本人英語学習者を対象者とし、FUMIEテストと自己報告による評定法を用いて外国人に対する態度を測定した。その結果、参加者はFUMIEテストと自己報告による評定法いずれにおいても外国人に対して比較的ポジティブな態度を示していたが、両測定間の相関関係は認められず、異なる側面の態度を反映したものであるといえる。

本研究の目的 本研究では、日本人における「外国人」に対する態度を明らかにすることを目的とする。「外国人」に対する態度の測定においては、従来の研究で用いられてきた自己報告式の質問紙法とともにFUMIEテストを用いて検討する。

方 法

予備調査 FUMIEテストで用いる刺激語を選定するため、Sakai & Koike（2011）を参考に漢字3文字からなる良いことを意味する単語（e.g., 健康体, 大成功）

と悪いことを意味する単語（e.g., 肥満体, 大失敗）をそれぞれ20種類用意し、それぞれの単語に対するイメージを調査した。日本人大学生112名が予備調査に参加した。単語は1単語ずつ提示され、単語の読み仮名の記入を求め、その後、イメージに関する3項目（i.e., 良い—悪い, 望ましくない—望ましい, つめたい—あたたかい）についてSD法7段階による回答を求めた。単語の読みの正答率が90%未満であった単語とその対となる単語（e.g., 及第点：75.89%, 落第点：99.11%）を除外した。残りの16対の単語に対する「良い—悪い」の評定得点について、1サンプルの*t*検定（検定値=4）を行なった（Table 1）。その結果、良いことを意味する単語に対する評定値は、有意に中点より高く、良いというイメージを持たれていることが示された。同様に、悪いことを意味する単語に対する評定値は、有意に中点より低く、悪いというイメージを持たれていることが示された。以上の結果より、FUMIEテストで用いる刺激語として計32単語が選定された。

参加者 日本人大学生160名（ $M=19.22$ 歳, $SD=1.28$ ）であり、性別の内訳は女性92名、男性68名であった。

FUMIEテスト FUMIEテストの実施方法は、Mori et al.（2008）を参考にした。FUMIEテストのターゲット単語を「外国人」とし、予備調査の結果から選定された良いことを意味する16単語、悪いことを意味する16単語を刺激語とした。テスト用紙はA3サイズ縦向き1枚とし、全13試行分の課題が印字されていた（Appendix A）。1試行あたり60単語を縦方向に配置し、その中にターゲット単語をランダムに点在させた。第1試行については練習試行とし、ターゲット単語「外国人」を含まなかった。また、第12、13試行は実施せず第11試行までを課題として実施した。回答者には、良いことを意味する単語については○印を、悪いことを意味する単語については×印をつけるよう指示した。ただし、「外国人」に対しては試行ごとに○印と×印を交互につけるよう指示した。1試行あたりの回答制限時間を20秒とし、開始の合図とともに、できるだけ速くかつ正確に、1単語ずつ飛ばさず○印あるいは×印のいずれかを記入するよう求めた。

外国人イメージ質問紙 外国人に対するイメージについて「悪い—良い」「親しみやすい—親しみにくい」「つめたい—あたたかい」「好き—嫌い」「信用できる—信用できない」の5項目をSD法（7段階評定）によって回答を求めた。また、感情温度計を用いて外国人に対する好意度について回答を求めた。好意的でも

Table 1 FUMIE テストで用いた刺激語に対するイメージ評定値 (1 サンプルの t 検定)

		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i> 値		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i> 値		
1	楽観的	5.01	1.13	9.47	***	悲観的	2.56	1.06	-14.30	***
2	優越感	4.41	1.37	3.17	**	劣等感	2.35	1.05	-16.71	***
3	積極的	5.93	1.08	18.90	***	消極的	2.45	0.89	-18.50	***
4	発展期	5.74	0.86	21.51	***	衰退期	2.29	0.92	-19.63	***
5	儉約家	4.78	0.98	8.36	***	浪費家	2.51	1.20	-13.14	***
6	向上心	6.37	0.77	32.48	***	無気力	2.27	0.96	-19.13	***
7	健康体	6.55	0.91	29.74	***	肥満体	2.07	1.05	-19.51	***
8	達成感	6.45	0.68	37.94	***	挫折感	2.79	1.38	-9.28	***
9	大成功	6.45	0.98	26.53	***	大失敗	2.10	1.16	-17.32	***
10	有意義	6.07	0.97	22.71	***	無意義	2.45	1.07	-15.33	***
11	安全性	5.99	0.96	21.88	***	危険性	2.00	0.87	-24.33	***
12	協調性	5.72	1.23	14.81	***	敵対性	3.11	1.28	-7.41	***
13	好景気	6.38	0.85	29.56	***	不景気	1.71	0.98	-24.65	***
14	肯定的	5.66	0.87	20.31	***	否定的	2.53	1.06	-14.76	***
15	優良品	6.38	0.83	30.33	***	粗悪品	1.59	0.73	-34.96	***
16	出生届	5.87	1.09	18.04	***	死亡届	1.71	0.90	-27.08	***

Notes: 「4」を中点とし、数値が大きいほど良いイメージ、数値が小さいほど悪いイメージであることを示す。
*** $p < .001$, ** $p < .01$.

非好意的でもない場合を50度とし、好意的な気持ちの強さに応じて51度から100度、逆に非好意的な気持ちがある場合には49度から0度とした。

手続き 本調査は20名程度の受講者数からなる授業の時間を利用して実施された。すべての参加者が、FUMIE テストを取り組んだのち外国人イメージに関する自己報告式の質問紙へ回答した。

結 果

潜在連想スコア (IAS) の算出 FUMIE テストにおいてターゲット単語である「外国人」に○印を付ける第4, 6, 8, 10試行の平均作業量と、「外国人」に×印を付ける第5, 7, 9, 11試行の平均作業量との差分を求めIAS (潜在連想スコア; Implicit Association Score) とした。IAS が正の値であれば、外国人に対して肯定的な態度、負の値であれば外国人に対して否定的な態度を抱いていることを示す。全参加者の平均IASは0.63、標準偏差は3.17であった。1サンプルの t 検定 (検定値=0) を行なった結果、統計的に有意な正の値であり ($t(116)=2.15, p < .05$, 両側検定)、一般に大学生は外国人に対して肯定的な態度を有していることが示された。

SD法による外国人イメージ 「悪い—良い」「親しみやすい—親しみにくい」「つめたい—あたたかい」「好き—嫌い」「信用できる—信用できない」の5項目に

ついて、中点4よりも値が大きくなれば肯定的なイメージ、4よりも値が小さくなれば否定的なイメージを示すよう処理を施し、平均した値を外国人イメージ得点とした ($\alpha = .673$)。全参加者の平均は4.22、標準偏差は0.69であった。1サンプルの t 検定を行なった結果、中点4との有意な差が認められ ($t(116)=3.47, p < .005$, 両側検定)、外国人に対して肯定的なイメージを抱いていた。

外国人に対する好意度 外国人に対する好意度の全参加者の平均は57.83、標準偏差は15.82であった。1サンプルの t 検定を行なった結果、好意的でも非好意的でもない50度との有意な差が認められた ($t(116)=3.47, p < .001$, 両側検定)。外国人に対して好意的な気持ちを抱いていた。

相関係数 IAS, 外国人イメージ得点と外国人に対する好意度それぞれの相関係数をTable 2に示す。IASと外国人イメージ得点および外国人に対する好意度の間にはいずれも有意な相関はみられなかった。しかしながら、外国人イメージ得点と外国人に対する好意度の間には有意な正の相関がみられた ($r = .735$)。

考 察

本研究では、日本人における「外国人」に対する態度を明らかにすることを目的とし、FUMIE テスト、SD法、感情温度計の3種の異なる測度を用いて検討

Table 2 IAS, 外国人イメージ得点と好意度の相関係数

	IAS	外国人イメージ得点	外国人に対する好意度
IAS	—	.076	.108
外国人イメージ得点		—	.735**
外国人に対する好意度			—

Note: ** $p < .01$.

した。その結果、外国人に対する潜在的な態度を示すIASは正の値を示し、外国人に対し比較的肯定的な態度を抱いていることが示された。また、SD法によって測定された外国人イメージ得点においても外国人に対して肯定的なイメージを抱いていることが示された。さらに、感情温度計を用いた外国人に対する好意度においても正の値を示しており、外国人に対して好意的に感じていることが明らかとなった。

しかしながら、それぞれの測度における相関分析を行なった結果、外国人イメージ得点と外国人に対する好意度においては正の相関関係がみられたが、IASとの相関関係はみられなかった。本研究の結果はSakai & Koike (2011)に一致する知見が得られ、前者2種の測度については顕在的側面における外国人に対する態度やイメージを反映しており、IASについては顕在的側面を反映したものであると考えられる。

本研究では、参加者に「外国人」というカテゴリーについて考えさせているが、個々の参加者が何をもって「外国人」としているかの検討がされていない。今後は、「外国人」から思い浮かべられる外国人像の違いを区分したうえで外国人に対する態度やイメージを検討していく必要があるだろう。

引用文献

- Devine, P. G. (2001). Implicit prejudice and stereotyping: How automatic are they? Introduction to the special section. *Journal of Personality and Social Psychology*, **81**, 757–759.
- 藤井勉 (2011). 潜在・顕在的態度, 自己概念の「不一致」に関する研究 —各種研究における「不一致」の基礎データ集計— 学習院大学文学部研究年報, **58**, 77–86.
- Greenwald, A. G., McGhee, D. E., & Schwartz, J. L. K. (1998). Measuring individual differences in implicit cognition: The implicit association test. *Journal of Personality and Social Psychology*, **74**, 1464–1480.
- 法務省入国管理局(編) (2012). 出入国管理 (平成24年版) 法務省入国管理局.
- Mori, K., Uchida, A., & Imada, R. (2008). A paper-format group performance test for measuring the implicit association of target concepts. *Behavior Research Methods*, **40**, 546–555.
- 村田光二 (2007). アテネ・オリンピック報道が日本人・外国人イメージに及ぼす影響, 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 課題番号: 16530398
- 日本政府観光局 JNTO (2013a). 国籍/月別 訪日外客数 (2003年～2013年) 日本政府観光局 2013年8月6日 <http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/visitor_trends/pdf/2013_tourists.pdf> (2013年8月31日).
- 日本政府観光局 JNTO (2013b). 年別 訪日外客数, 出国日本人数の推移 (1964年～2012年) 日本政府観光局 2013年7月3日 <http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/pdf/marketingdata_outband6412.pdf> (2013年8月31日).
- 坂口雅彦・中川明子・永村和哉・守一雄 (2009). 理科教育実践の効果を科学的に測定・評価する取り組み — FUMIE テストの利用 — 信州大学教育学部研究論集, **1**, 15–27.
- Sakai, H. & Koike, H. (2011). Implicitly and explicitly measured attitudes towards foreigners: A dual-process model perspective. *JABET Journal*, **14/15**, 39–58.
- 渋谷明子・テーシャオープン・李光鎬・上瀬由美子・萩原滋・小城英子 (2011). メディア接触と異文化経験と外国・外国人イメージ —ウェブ・モニター調査(2010年2月)の報告(2)— メディア・コミュニケーション, **61**, 103–125.

最終版平成25年9月17日受理

外国人に対する態度と外国人イメージの測定

Appendix A 本研究で用いた FUMIE テストの体裁 (一部)

	課題 0	課題 A-1	課題 B-1	…	課題 B-5	課題 A-6	課題 B-6
1	優越感	達成感	好景気	…	好景気	劣等感	不景気
2	達成感	外国人	無意義		無意義	有意義	外国人
3	無意義	劣等感	外国人		外国人	外国人	有意義
4	危険性	死亡届	敵対性		敵対性	大成功	挫折感
5	劣等感	好景気	向上心		向上心	外国人	外国人
6	大成功	外国人	外国人		外国人	衰退期	肯定的
7	無気力	無気力	安全性		安全性	外国人	外国人
8	有意義	協調性	外国人		外国人	無意義	肥満体
9	安全性	外国人	衰退期		衰退期	肯定的	達成感
10	挫折感	向上心	危険性		危険性	外国人	儉約家
∴	∴	∴	∴		∴	∴	∴
51	不景気	発展期	外国人		外国人	外国人	好景気
52	発展期	挫折感	協調性		協調性	楽観的	挫折感
53	大失敗	浪費家	優越感		優越感	外国人	外国人
54	否定的	外国人	外国人		外国人	不景気	優良品
55	有意義	大失敗	敵対性		敵対性	外国人	外国人
56	無意義	楽観的	外国人		外国人	優良品	達成感
57	劣等感	外国人	肥満体		肥満体	消極的	否定的
58	健康体	積極的	向上心		向上心	外国人	大成功
59	挫折感	外国人	外国人		外国人	大成功	衰退期
60	危険性	不景気	楽観的	楽観的	悲観的	外国人	

Notes: 1 試行あたり 60 単語を配置した。課題 0 (第 1 試行) は練習試行でターゲット単語「外国人」を含まない。課題 A の試行では「外国人」には○印を、課題 B の試行では「外国人」に × 印を付ける。

The Measurement of Attitudes and Images about Foreigners

Munehisa KANEDA

Abstract

The purpose of the present study was to examine attitudes and images regarding foreigners, which are held by Japanese people. Self-reported images of foreigners and favorable attitudes about foreigners were assessed by the semantic differential method and a feeling thermometer. The Filtering Unconscious Matching Implicit Emotions (FUMIE) Test was used as an implicit measure of the same variables. Results indicated that all measures indicated significantly positive attitudes and images about foreigners. However, there were no correlations between implicit and explicit measures. It is suggested that implicit and explicit attitudes about foreigners might result from different processes.

Keywords: attitudes towards foreigners, images of foreigners, FUMIE test, explicit/implicit measures